

連携だより



あけましておめでとうございます

院長 矢澤 正知

昨年は中央病院の診療に関してご理解ご協力を頂き大変有り難うございました。

当院も新築移転から 18 年が過ぎようとしています。この間に上越地域の人口が約 10%減少し、当院の入院患者さんの年齢構成も大きく高齢化してきました。

H19 年に一部の外来での完全予約制を導入しました。また、患者さんには「かかりつけ医」をお願いして、地域の医療機関の皆さんとの連携を行い、H21 年に医事課の奥にあった「連携室」を外来ホールへ「連携センター」として移設拡充しました。そして地域の皆様の協力もあり当院は地域の救急の 40%、入院の 30%を担う急性期病院になることが出来ました。

一方、施設・設備の面でも診断治療機能の充実を進めましたが施設の狭小化もあり、PET-CT の新設導入を機に、外来機能の改変の一環として進めていた内視鏡室の内視鏡センターへの拡充を同時に行い、外来棟の隣に新診療棟を今年の秋に開設します。この施設の運用に関して地域の皆様のご意見等をいただき、上越のがん診療・内視鏡治療の向上に役立てて行きたいと考えています。当院の現状について、医療機関の皆様のご理解とご協力をお願いして私の新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしく願い申し上げます。



連携登録医の紹介

駅南クリニック富樫医院 富樫 満先生

当院は、直江津駅南口の東雲町に平成 10 年 5 月開院した内科医院です。生まれも育ちも直江津で、昭和(!)63 年 11 月から約 10 年間労災病院に勤務し開業しました。このため、当初来院患者さんのほとんどは直江津地区の方でしたが、16 年も経ちますと周辺地区から来られる方も増え、現在の紹介先病院の比率は労災病院と上越総合病院、そして貴院が均等に三等分といったところでしょうか。しかし、特に貴院救急救命センターの存在は開業医にとっては大変心強く、来院時既に重症の患者さん、早晚急変が危惧される患者さんはセンターに相談する事が多く、救急対応の先生方には日々大変お世話になっております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

診療内容は、胃腸・肝胆膵系の消化器内科を中心に毎日上部下部内視鏡、腹部エコー等の検査を施行し、各病院循環器内科からご紹介頂く心筋梗塞後や狭心症ステント留置後の患者さんの管理、内科一般の高血圧、高脂血症、糖尿病、痛風、喘息などを中心に診療しております。また、在宅療養の患者さんの訪問診療も昼休みの間に行っていますが、午前の外来診療や検査時間が延びる事もあり、これから在宅診療が多くなるであろう医療状況に合わせられるか悩ましいところです。

その在宅医療ですが、老老介護、企業や官公庁の中心を担う年代の介護者、共働きをせざるを得ない介護者への過度の介護負担を考えますと、在宅療養が理想型とされ、それを拒みにくい風潮まである昨今の医療状況は少しばかり考え直す時期に来ているように思えます。無論、ご本人が自宅での療養を強く望み、かつ支える家族もそれを望んでいるのであれば在宅がベストですし、そのためのチーム医療の体制拡充が必要である事は論を俟ちません。要は患者さんとその家族が本当に望む形に持っていけるような選択肢を提示出来るかが最大の問題ですので、そのための療養施設と人員整備も決して置き去りには出来ないという事です。

小生イシモチで、何回かの尿路結石の破碎、胆石手術。また突発性難聴、頸椎症など経験しつつもう少しで還暦という年齢になってしまいました。これからも、止まぬ耳鳴りを BGM に油切れの体に鞭打って郷土の地域医療に少しでも貢献出来ればと考えております。

最後に、貴院におかれましては上越地区の中核病院として、救急医療の最後の砦として、いっそう邁進されん事を心からお祈り申し上げご挨拶と致します。



C 型肝炎の新たな治療が始まりました

—インターフェロンフリーの経口薬による C 型肝炎治療—

消化器内科 坂牧 僚

C 型肝炎は C 型肝炎ウイルスによる慢性肝炎で、現在日本ではおよそ 150～200 万人の感染者がいるといわれています。

C 型肝炎に対する抗ウイルス療法としては、今まではインターフェロンが主軸でありましたが、2011 年よりウイルスを直接阻害するプロテアーゼ阻害薬が開発され、インターフェロンとの併用治療にて高い治療効果が得られておりました。

2014 年 9 月にはプロテアーゼ阻害剤 2 種の組み合わせによる抗ウイルス治療が保険適応となりました。これはインターフェロンが使えない患者さんやインターフェロンが無効の患者さんでも高い治療効果が期待でき、およそ 85% の治癒率があるとされています。またインターフェロンを用いないため、発熱、関節痛、倦怠感、うつ症状などといったインターフェロン特有の副作用もありません。

ただし現在のところ適応は限られており、ジェノタイプが 1 型の慢性肝炎あるいは代償性肝硬変であること、インターフェロンに不耐容あるいは無効の患者であることが適応の条件となっております。

それから薬剤による肝障害や胆管炎なども報告されており、インターフェロンとは異なる副作用が出現し中止せざるを得ないこともあります。

新たな治療として期待できる新薬ではありますが、適応外例や、中止例、無効例も存在することは留意の必要があります。

C 型肝炎治療について説明が聞きたい患者さんがおられましたら、当院地域連携センター経由で消化器内科のご予約をお願いいたします。





お知らせ

院内研修会のご案内

- 1月26日(月)17:45~18:45 抗がん剤による曝露 場所:講堂 2・3
 - 2月3日(金)17:30~18:30 第3回糖尿病勉強会 場所:講堂 2・3
- 興味のある方はぜひご参加下さい。

地域連携センターの開設時間を変更になりました

- 地域連携センターの開設時間
平成27年1月1日から 8:30~17:15 とさせていただきます。

お願い

- 診療情報提供書により、当院への受診をされる場合は、あらかじめ電話やFAXにてご連絡いただき、予約による受診をお願いいたします。
直接来院された場合、診療の状況で、当日受診していただけない場合もあります。
患者様のご負担にもなりますので、何卒よろしくお願いいたします。

- 必ず、診療情報提供書と予約が必要な診療科は

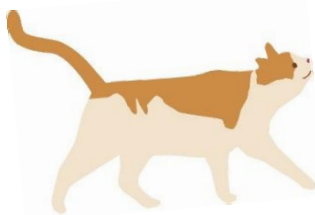
整形外科

眼科

皮膚科

となっております。ご理解、ご協力をお願い致します。

- ※当日緊急で外来へ受診の場合は、当該外来へ一報いただきますと助かります。
救急での診療に関しては従来通り救急外来へのご連絡で対応させていただきます。



新潟県立中央病院
上越市新南町 205 番地
電話:025-522-7711(代表)
FAX:025-524-3232
地域連携センター

